

教育研究業績書

令和 7年 5月 1日

氏名 木下 奈津紀

研究分野	研究内容のキーワード
地域研究(韓国) 言語学	政治史 韓国社会論 高等教育(日韓比較) 韓国語教育 日本語教育 アカデミックスキルズ

教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 ＜日本語教育＞ 1) 留学生参加型の授業の実践	平成28年度 後期	(韓国光州)朝鮮大学校(チョソンデハッキョ)外国語大学日本語科「中級日本語会話II」の講義(2クラス)において、日本人学生参加型の授業を実施した。第1回講義～第8回講義までは、ロールプレイングを中心とした授業構成とし、ネイティブスピーカーである日本人学生と実際に話す機会を多く設けた。第9回講義～第15回講義では、グループ活動を実施した。3つのグループを作り(各グループ5名程度)それぞれ「韓国の食文化」、「光州広域市の街」、「大学のキャンパス紹介」というテーマで、日本語で日本人学生に対してプレゼンテーションを行った。同年代の日本人との交流を通じて、学生の学習意欲の向上が見られた他、積極的な日本語の使用が促され、言語の運用能力の向上も見られた。
2) CEFR とJF 日本語教育スタンダードに基づいた授業の実践	平成29年度 前期	(韓国光州)朝鮮大学校(チョソンデハッキョ)外国語大学日本語科「中級日本語会話I」の講義(2クラス)において、CEFRとJFスタンダードに基づいたCan-doを目標とする授業を行った。従来の日本語教育では、文型積み上げ授業が一般的であったが、近年課題遂行型授業が行われつつある。釜山で開催された国際交流基金による「B2レベル」の授業に関する勉強会に参加した上で、オリジナル教材を作成し、課題遂行型の授業を実践した。初級クラスでインプットした語彙や文型、そして新たに学んだ語彙や文型を課題遂行のために積極的にアウトプットしていくことで、言語の運用能力の向上が見られた。
＜韓国語教育＞ 1) インタビュー活動を取り入れた授業の実践	平成30年度 後期	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2韓国・朝鮮語入門B」において、言語の運用能力の向上を目的としたインタビュー活動を実施した。オリジナル教材を作成し、定型文を暗記してインタビューするパターンと、履修者自身が質問文を考えてインタビューするパターンを用意した。インタビュー活動を通じて、これまでインプットしてきた語彙や文法を受講者が積極的にアウトプットしていくことができ、言語の運用能力の向上へと繋がった。

2)視聴覚教材を活用した授業の実践	平成31年度後期	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」において、学生の韓国語学習のモチベーションの維持および韓国の文化や社会の理解を目的として、写真や動画などの視聴覚教材を用いて積極的に韓国の社会や文化に関連する事柄を紹介した。紹介する際、クイズ形式で学生が楽しく学べるよう工夫した。
3)オンラインツールを利用した発音指導の実施	令和2年度前期	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」のオンデマンド形式による講義において、Microsoft Teamsの録音機能を利用した発音指導を実施した。受講者に発音の課題を課し、その課題に従いTeamsの録音機能を使って録音したものを教員に送付させた。教員は発音をチェックし、フィードバックを録音して受講者に送付した。オンデマンド形式の講義は一方的な講義となりがちだが、オンラインツールを利用することで、双方向型の講義を実施することができた。
4)自学自習促進のための取り組み①	令和3年度前期	これまでに実施した「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」の授業アンケートの結果から、自学自習を行う学生が非常に少ないことが分かった。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインツールの利用が広がったことから、オンラインツールを利用した自学自習促進のための取り組みを行った。具体的には、毎回の講義の後にPowerPointを使用して復習動画を作成し配信した。対面講義では、マスクをしながら講義をしなければならないため、マスクを外した状態の教員の口元をじっくりと見ながら発音の練習ができるよう工夫した。動画の最後にはディクテーションを課し、聞き取りと書き取りの能力の向上を図った。復習の習慣づけが促され、自主的に復習に取り組む学生が増加した。
5)自主学習促進のための取り組み②	令和3年度後期	上記同様に、これまで実施した「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」の授業アンケートの結果から、自学自習を行う学生が非常に少ないことが分かった。そこで、予習・復習プリントを作成し、毎回の講義で課した。予習プリントは、新出語彙を中心としたものとし、復習プリントは学んだ学習項目を復習できるよう書き取り重視のプリントとした。初期の段階では、義務感でプリントをやっていた学生も少なくなかったが、反復学習の効果を実感したことで、進んで予習・復習に取り組む学生が増加した。
<初年次教育>		
1)ブレインストーミングを取り入れた入学前教育の実践	平成31年3月7日	愛知淑徳大学高大連携運営委員会の高大連携教育の一環として実施される「入門講座(入学前教育)」において、「大学で学ぼう」という講座を担当し、主体的な学びの経験として、ブレインストーミングを取り入れた授業を実践した。大学入学前の段階で、大学での学びを体験することによって、入学予定者のモチベーションの維持、および大学での学びへの移行を促す効果が得られた。
2)プレゼンを取り入れた授業の実践	令和3年度後期	愛知淑徳大学教養教育科目「探究・違いを共に生きるⅡ」において、ともいきプレゼンを取り入れた授業を実践した。同科目は、愛知淑徳大学の大学理念「違いを共に生きる」を理解、具現化するための科目である。授業の前半では、「外国との共生」をテーマに韓国との共生について講義を行った。そして、授業の後半では、履修者一人一人が現代社会が抱える課題の一つを取り上げ「違いを共に生きる」という視点からプレゼンテーションを行った。履修者の課題発見および解決能力の向上が見られた他、プレゼンを通じて、アカデミックスキルの向上も見られた。

2. 作成した教科書、教材		
<教科書> 1) チョ・スルソップ、木下奈津紀著「韓国語の第一歩」白帝社	令和4年3月30日	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」で使用する教科書を作成した。
<新入生配布書籍の編集(初年次教育関連)> 1) 『大学生のための読書案内—入門編2020—』初年次教育部門	令和2年3月1日	愛知淑徳大学初年次教育部門が発刊している『大学生のための読書案内—入門編—』の編集を行った。本書は、愛知淑徳大学の専任教員がそれぞれ専門家の立場から、新入生に読んでもらいたい書籍を紹介する内容となっている。本書の編集を担当した。本書は基本的には愛知淑徳大学の新入生に配布されるものであるが、高大連携推進提携校にも配布し、高校生の読書指導にも活用されている。 (編者: 小倉 齊、木下奈津紀、永井聖剛、中嶋真弓、松井広志)
2) 『大学生のための読書案内—入門編2021—』初年次教育部門	令和3年3月1日	愛知淑徳大学初年次教育部門が発刊している『大学生のための読書案内—入門編—』の編集を行った。本書は、愛知淑徳大学の専任教員がそれぞれ専門家の立場から、新入生に読んでもらいたい書籍を紹介する内容となっている。本書の編集を担当した。本書は基本的には愛知淑徳大学の新入生に配布されるものであるが、高大連携推進提携校にも配布し、高校生の読書指導にも活用されている。 (編者: 小倉 齊、木下奈津紀、鈴木崇夫、永井聖剛、中嶋真弓、松井広志)
<教材>		
<日本語教育> 1) CEFR とJF 日本語教育スタンダードを参照した教材の作成 ※「1教育方法の実践例<日本語教育>2)」の教材	平成29年度前期	(韓国光州)朝鮮大学校(チョソンデハッキョ)外国語大学日本語科の「中級日本語会話I」の授業で使用する教材を作成した。従来の定型会話文を暗記してたり、定型会話文を模範とした会話の練習をしたりするのではなく、初級レベルで学んだ語彙や文型を復習したうえで、会話のテーマ(目標)を設定し、その目標を学生自身が達成できるよう教材を作成した。
<韓国語教育> 1) インタビュー活動のための教材の作成 ※「1教育方法の実践例<韓国語教育>1)」の教材	平成30年度後期	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2(韓国朝鮮語入門B)」において、言語の運用能力の向上を目的としたインタビュー活動のための教材を作成した。定型文を暗記してインタビューをするパターンと、受講者が自ら短文で質問を考えインタビューをするパターンを準備した。また、リスニング力、そしてライティング力の養成のために、インタビューで聞き取った回答を書く欄も作った。
2) オンデマンド講義実施のための動画とオリジナルプリントの作成	令和2年度前期	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2(韓国朝鮮語入門B)」において、オンデマンド講義実施のための動画を作成した。PowerPointで学習項目の解説スライドを作り、ナレーション機能(動画有り)を利用して、授業を録画した。学習項目の反復練習が出来るようオリジナルのプリントも作成した。単調な動画とならないよう、学生からの質問(韓国や韓国語について知りたいことを事前にアンケートしたもの)に答えるコーナーを作るなどの工夫も行った。

3) 自主学習促進のための復習動画の作成 ※「1教育方法の実践例＜韓国語教育＞の4)」の教材	令和3年度前期	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2韓国朝鮮語入門B」において、自主学習促進のための、復習動画を作成した。PowerPointを使用して、学習項目のポイントをまとめ、ナレーション機能を使用して、解説を加えたり口元を見せたりしながら発音の練習が出来るよう工夫した。
4) 自主学習促進のための予習・復習プリントの作成 ※「1教育方法の実践例＜韓国語教育＞の5)」の教材	令和3年度後期	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2韓国朝鮮語入門B」において、自主学習促進のための、予習・復習プリントを作成した。予習プリントは、次の回で学習予定の新出語彙を練習するものとし、復習プリントは、学習した項目の書き取り練習を中心としたプリントとした。
＜初年次教育＞ 1) セルフアクティブラーニング実施のための個人ワークシートの作成	令和2度前期	愛知淑徳大学初年次教育部門が開設している基幹科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」が新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オンデマンド講義へと切り替わった。同科目は、グループワークを取り入れた科目であり、カリキュラムの変更を余儀なくされた。オンデマンド講義においても受講者が能動的な学びが実現できるように工夫を凝らした、個人ワークシートを作成した。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
＜学生による授業評価＞ 1) 「中級日本語会話II」 ※「1教育方法の実践例＜日本語教育＞1)」の評価	平成28年度後期	教育方法の実践例＜日本語教育＞1) であげた授業において、学期末に実施された大学による授業評価で総合評価4.8(5段階評価)を獲得した。コメント欄からは、同年代の日本人と日本語で話しながら学ぶことができたことで学習意欲が向上したことや、楽しく学習が出来た様子がうかがえた。
2) 愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」	平成31年度後期	令和元年12月に実施された大学による授業評価で、全項目において、肯定的な評価が得られた。また、応募者が学期末に独自に実施したアンケートでは、視聴覚教材を導入した授業の実施により、韓国語学習のモチベーションが向上したと答えた受講者が約90%となった他、自由記述では、韓国に対する関心が広がり、さらに韓国語や韓国の文化や社会について知りたくなったなど、授業に対する肯定的なコメントが多く見られた。
3) 「愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」	令和3年度前期	令和3年7月に実施された大学による授業評価で、全項目において肯定的な評価が得られた。また、応募者が学期末に独自に実施した授業アンケートでは、約8割の学生が復習動画の配信によって自主的に授業の復習に取り組むことができたという回答を得られた。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
特記事項なし		
5. その他		
1) 桑名市国際交流アドバイザー委員会 日本語教室 ボランティア	平成25年5月～平成26年9月	桑名市が運営している日本語教室にて、週1回、ボランティア講師を務めた。

2)Chosun University 言語教育院(市民向け講座)講師	平成27年6月～平成29年8月	Chosun Universityに勤務していた際、兼担で市民向け講座の講師を務めた(担当講座:「ドラマ日本語」「ビジネス日本語」「日本語能力試験対策N4,N5」)
3)教科書作成アドバイザー(諮問)	平成29年3月～平成30年4月	(韓国金海)仁済大学校(インジェデハッキョ)が国家プロジェクト「プライム事業」の一環で作成した、イム・ホンチャン、高柳有希『서비스 일본어 회화(サービス日本語会話)』(シンア社、2021年)のアドバイザー(諮問)を務めた。

職務上の実績に関する事項				
事 項		年 月 日		概 要
1. 資格、免許				
1) 愛知淑徳大学日本語教師資格修了認定証取得		平成26年3月31日		愛知淑徳大学にて、日本語教育に関する科目を26単位以上修得し、日本語教師資格修了認定を受けた。
2) 韓国語能力試験(TOPIK)6級合格		令和3年11月25日		令和3年10月17日に実施された第78回韓国語能力試験を受験し、6級に合格した。
2. 特許等				
特記事項なし				
3. 実務の経験を有する者についての特記事項				
特記事項なし				
4. その他				
特筆事項なし				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1.韓国財閥と政治－大宇を事例として－	単	令和3年8月	成文堂	大宇グループを取り上げ、韓国の軍事政権・軍人政権下における政府と財閥との関係を明らかにした。

(学術論文)				
1.韓国大宇財閥「玉浦造船所」引受けに見る政府と財閥の関係	単	平成23年3月	『愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告』第6号, 愛知淑徳大学大学院現代社会研究科(pp.69-82)	大宇グループが大韓造船公社から引受けた「玉浦造船所」を取り上げ、軍事政権時代の政府と財閥との関係を明らかにした。
2.盧泰愚政権下における政府と財閥の関係―「大宇造正常化方案」を事例として	単	平成23年9月	『愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告』第7号, 愛知淑徳大学大学院現代社会研究科(pp.107-121)	経営破綻寸前となっていた大宇造船工業を正常化するための「大宇造船正常化方案」を取り上げ、方案成立の過程から盧泰愚政権時代の政府と財閥との関係を明らかにした。
3.「北方政策」に見る1980年代の韓国における政府と財閥の関係:「北方政策」で財閥が果たした役割	単	平成24年3月	『愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告』第8号, 愛知淑徳大学大学院現代社会研究科(pp.47-56)	盧泰愚政権下では、「北方政策」が積極的に行われていた。その「北方政策」において、韓国財閥が果たした役割を明らかにした。
4.韓国における政府と財閥の関係:二政権の重化学投資調整を事例として	単	平成26年3月	『愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告』第10号, 愛知淑徳大学大学院現代社会研究科(pp.95-103)	韓国の軍事政権下で行われた重化学投資調整を取り上げ、韓国における政権交代が財閥の経済活動に与えた影響について考察した。
5.韓国の共産圏諸国との関係改善における非公式チャンネル―ハンガリーを事例として―/査読有	単	平成26年7月	『日本法政学会法政論叢』第50巻第2号, 日本法政学会(pp.92-104)	韓国の「北方政策」の突破口となったハンガリーを取り上げ、韓国とハンガリーとの外交関係構築における非公式チャンネルからのアプローチについて明らかにした。
6.1980年代における韓国財閥の政治史的考察―大宇財閥のハンガリーとの経済交流を事例として―/査読有	単	平成28年12月	”Journal of International Culture” Vol.8-2, The International Culturel Insitute Chousun University,Gwangju,Korea(p.83-99)	韓国財閥を政治史の視点から考察することを目的として、大宇グループのハンガリーとの経済交流を取り上げ、大宇グループの経済活動と対共産圏外交との関係を明らかにした。

7.韓国における軍事政権と財閥:新興財閥大宇を事例として/博士学位論文	単	平成29年3月	『愛知淑徳大学博士学位論文』愛知淑徳大学(全112頁)	大宇グループを取り上げ、韓国の軍事政権・軍人政権下における政府と財閥との関係を明らかにした。
8.韓国における大学構造改革と日本語教育:光州広域市を中心として	単	平成31年3月	『愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇』第9号,愛知淑徳大学交流文化学部(pp.41-58)	少子化が進む韓国では、政府主導で大学構造改革が実施されている。その大学構造改革が、韓国の高等教育機関における日本語教育に与えた影響を明らかにした。
9.韓国における「新興財閥」の形成とその展開:栗山財閥を事例として	単	令和2年3月	『愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇』第10号,愛知淑徳大学交流文化学部(pp.89-96)	韓国の朴正熙政権時代における「新興財閥」の形成とその展開を明らかにすることを目的として、栗山財閥を取り上げた。
10.金泳三政権下における韓国財閥:大宇を事例として	単	令和3年3月	『愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇』第11号,愛知淑徳大学交流文化学部(pp.109-116)	文民政権である金泳三政権下における韓国財閥を考察することを目的として、大宇グループを取り上げた。
11.金大中政権下における政府と財閥:大宇を事例として	単	令和4年3月	『愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇』第12号,愛知淑徳大学交流文化学部(pp.73-81)	金大中政権下で、韓国大財閥の一つである大宇グループが解体された。大宇グループの解体の要因を政治の視点から分析した。
12.韓国・朝鮮語授業における文化教育:入門レベルの韓国・朝鮮語授業における文化教育の実践とその評価	単	令和5年3月	『愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇』第13号,愛知淑徳大学交流文化学部(pp.97-106)	愛知淑徳大学交流文化学部専門科目「韓国・朝鮮語入門B」において、積極的に文化教育を取り入れた授業を実践した。その実践内容と学生からの評価をまとめ、入門レベルの韓国語教育における文化教育の重要性を提示した。
(その他) ＜学会等発表＞ 1.1980年代の「北方政策」で韓国財閥が果たした役割-1980年代の大宇財閥の共産圏諸国との経済交流を事例として-	単	平成24年12月	「第13回現代韓国朝鮮学会学術大会」現代韓国朝鮮学会、於ける早稲田大学早稲田キャンパス	盧泰愚政権時代に行われた「北方政策」における韓国財閥が果たした役割に関する口頭発表を行った。

2.韓国の対共産圏外交-ハンガリーとの国交樹立を手がかりに-	単	平成25年12月	「日本法政学会第119回総会および研究会」日本法政学会、於ける東洋大学白山キャンパス	韓国の対共産圏外交における非公式チャンネルからのアプローチに関する口頭発表を行った。
3.韓国とハンガリーとの関係構築と非公式チャンネル-1980年代前半を中心として-	単	平成26年12月	「第15回現代韓国朝鮮学会学術大会」現代韓国朝鮮学会、於ける新潟国際情報大学サテライト新潟中央キャンパス	韓国とハンガリーとの外交関係構築の過程で、非公式チャンネルからどのようなアプローチが行われていたかということを明らかにした。
4.「文化芸術基本法(2001)」の制定と日本の現状／招待あり	単	平成29年6月	「アジア文化中心都市、文化基盤学際間融合・複合国際セミナー」朝鮮大学校(チョソンデハッキョ)法学研究院、於けるアジア文化殿堂(韓国光州)	韓国の光州広域市で開かれた国際フォーラム「アジア文化中心都市、文化基盤学際間融合・複合国際セミナー」にて、久留米大学西原慎二教授の発表の通訳(韓国語)を務めた。 (共同発表者:西原慎二、木下奈津紀)
5.第14代韓国大統領選挙に見る韓国財閥	単	平成30年5月	「第23回定例研究会」現代韓国朝鮮学会、於ける早稲田大学早稲田キャンパス	現代韓国朝鮮学会「第23回定例研究会」にて、韓国の第14代大統領選挙を取り上げ、韓国財閥総帥の政界への進出が韓国財閥の企業活動に与えた影響について、口頭発表を行った。
6.本学入学者の現状と課題ー「新入生学習力調査」の結果をどう活用するかー	共	平成31年3月	「2018年度初年次教育部門教育実践・研究発表会」愛知淑徳大学初年次教育部門、於ける愛知淑徳大学長久手キャンパス	愛知淑徳大学初年次教育部門「2018年度初年次教育部門教育実践・研究発表会」にて、愛知淑徳大学で実施されている「新入生学習力調査」の結果の活用法について、口頭発表を行った。 (共同発表者:永井聖剛、下岡邦子、木下奈津紀)

7.韓国語科目のオンデマンド方式による授業実践	単	令和2年9月	「愛知淑徳大学韓国・朝鮮語運営FD報告会」愛知淑徳大学 韓国・朝鮮語運営委員会、オンライン (Teams)	「愛知淑徳大学韓国・朝鮮語運営FD報告会」にて、コロナ禍で実践した「KBS2(韓国・朝鮮語入門B)」のオンデマンド講義について、口頭発表を行った。
8.1970～80年代における大宇の海外進出が果たした政治的役割ーアフリカ諸国を中心としてー	単	令和3年11月	「2021年度現代韓国朝鮮学会研究大会」現代韓国朝鮮学会、オンライン (Zoom)	現代韓国朝鮮学会「2021年度現代韓国朝鮮学会研究大会」にて、スーダンを主に取り上げ、1970年代～80年代における大宇の海外進出が果たした政治的役割に関する口頭発表を行った。
9.韓国における初年次教育の現状ー「思考と表現」科目を中心としてー	単	令和4年3月	「2022年度初年次教育部門 教育実践・研究発表会」愛知淑徳大学初年次教育部門、オンライン (Teams)	愛知淑徳大学初年次教育部門「2022年度初年次教育部門教育実践・研究発表会」にて、「思考と表現」科目を中心として韓国で行われている初年次教育の取り組みについて報告した。
＜報告書など＞				
1.《資料》「文化芸術基本法(2001)」の制定と日本の現状	共	平成29年12月	『久留米大学法学』第77号、久留米大学法学会、pp.105-120	韓国の光州広域市で開かれた国際フォーラム「アジア文化中心城市、文化基盤学際間融合・複合国際セミナー」において、久留米大学西原慎二教授の報告内容を原稿にまとめ、その韓国語に翻訳を担当した。 (共著者:西原慎二、木下奈津紀)
2.愛知淑徳大学入学者の基礎学力に関する報告ー「新入生学習力調査」から見える現状と課題ー※学外秘	共	平成31年3月	愛知淑徳大学初年次教育部門	本人は「本学入学者の志望度と大学教育への期待ー『新入生アンケート』を手掛かりとしてー」の執筆を担当した。完成した報告書は、学内の専任教員に配布した。 著者:永井聖剛、下岡邦子、木下奈津紀
3.韓国の大学・大学生を取り巻く状況から見えるもの:韓国の姿から日本の大学・大学生の今後を考えるー	単	平成31年5月	『愛知淑徳大学初年次教育年報第5号』愛知淑徳大学初年次教育部門 (pp.12-13)	愛知淑徳大学初年次教育部門が発行している『愛知淑徳大学初年次教育年報』において、韓国の大学・大学生の現状をまとめた。
4.韓国における初年次教育の現状:「思考と表現」に関する科目を中心として	単	令和4年5月	『愛知淑徳大学初年次教育年報第7号』愛知淑徳大学初年次教育部門 (pp.14-15)	愛知淑徳大学初年次教育部門が発行している『愛知淑徳大学初年次教育年報』において、韓国における初年次教育の現状をまとめた。